

湖東管内の小麦の生育状況について ～凍霜害の発生が懸念される～

今年の麦の生育は、播種後 1 月中旬までの暖冬の影響により異常に早まり、すでに幼穂が形成されていることから、平年以上に凍霜被害の発生が懸念されます。このため、当課では生育調査による生育状況の確認や、被害軽減のための栽培技術講習会を 1 月 22 日に開催するなど、関係機関と連携を図りながら栽培農家への情報提供を実施してきました。

2 月 3 日に実施した生育調査では、10 月下旬に播種されたほ場では、すでに幼穂が 2cm 以上となり、1 月下旬の寒波の影響により穂の一部が枯死するなどの被害が確認されましたが、11 月に播種されたほ場では、幼穂は 2～5 mm 程度で枯死は確認できませんでした。

今後も、気温の変動が大きいことが予想されることから、的確に生育状況を把握し、生育に応じた肥培管理や排水対策など栽培農家への情報提供を継続していく予定です。



図 1 健全な幼穂



図 2 穂先が枯死した幼穂